足利観光誘客への提言

足利観光誘客戦略会議

目　　次

Ⅰ．基本戦略 1
足利ならではの地域資源の見直し 1
競争力のあるもの、創れるものを優先 1
お客様から見ての魅力づくりの構築 1
Ⅱ．グランドデザイン 2
足利の歴史物語の構築　室町時代以前の歴史性・市内の史跡等の再認識 2
足利の近・現代産業遺産の再考 3
「学び舎のまち足利」の具現化　体験型観光 4
足利の自然とその活用 5
広域観光エリアの構築 7
おもてなしの充実 8
来訪者の利便性の向上 9
足利の認知度の向上 9
足利の食文化の情報発信 10
Ⅲ．実施方策　　営業戦略 11
足利の歴史物語の構築　室町時代以前の歴史性・市内の史跡等の再認識 11
１．足利学校・鑁阿寺を中心とした観光エリア 11
1)足利学校の魅力向上 11
2)足利学校・鑁阿寺の宝物展示 12
3)鑁阿寺の整備 12
２．樺崎寺を中心とした観光エリア 13
1)浄土庭園の復原 13
2)樺崎八幡宮の活用 13
3)足利義兼と鑁阿寺との関連 14
足利の近・現代産業遺産の再考 15
１．織姫神社を中心とした観光エリア 15
1)縁結びの神様 15
2)もみじ谷の充実 15
3)西渓園の活用 15
4)逆川の整備 16
5)産業遺跡観光 16
「学び舎のまち足利」の具現化　体験型観光 17
１．あしかがフラワーパーク・栗田美術館を中心とした観光エリアの充実 17
1)学びの要素の導入 17
2)栗田美術館からの全国窯元の情報発信 17
3)栗田美術館の多機能化 17

4)関連施設との互恵関係の確立 18
5)北部の観光ポイント 18
２．産業観光 18
1)先進企業の視察 18
2)５Ｓ推進企業の視察 18
3)産官学連携の学び 19
足利の自然とその活用 19
１．里山ハイキングの促進 19
1)ハイキングコースの整備 19
2)コース案内の充実 20
3)コース起・終点のおもてなし整備 20
２．ＪＡ足利と連携した里山・農業活用による観光 20
1)ふるさと交流館の活用 20
2)里山体験・農業体験の施設整備 21
3)宿泊施設の整備 22
広域観光エリアの構築 23
１．鉄道事業者との連携による広域観光エリアの構築 23
２．観光先進地等との互恵関係の整備（鎌倉市、水戸市など） 23
３．足利の地域特性を活かした近隣との連携（栃木市その他、両毛沿線） 23
おもてなしの充実 24
１．受け入れ施設の整備 24
２．市民意識の向上 24
３．インバウンド観光への取り組み 24
来訪者の利便性の向上 25
１．交通利便性の向上 25
足利の認知度の向上 25
足利の食文化の情報発信 26
１．足利の食文化の再認識 26
２．食を通じたおもてなし 26
Ⅳ．推進体系 27
資料編 28
１．足利観光誘客戦略会議設置要綱 28
２．足利学校参観者倍増計画実施図 30
３．足利学校参観者倍増計画について 31

■はじめに

この「足利観光誘客戦略会議」が設置された背景は、平成 24 年 1 月 1 日の「足利学校参観者倍増計画」キックオフを契機として、足利学校の参観者倍増を図り、足利市の観光振興を推進するという目標があります。

観光振興という目標達成に向けた取り組みとして、行政内部の視点からだけでなく、民間で観光やイベントに携わる専門家からの意見を活用し、計画の推進を図るため、「足利観光誘客戦略会議」が設置されたものです。

会議の発足にあたり、座長に選任され、この会議の運営を任されましたので、これまでの経験を生かして、具体的で、効果的な、施策の取りまとめを心がけました。

誘客戦略の流れとして、基本戦略の大枠を定めて、グランドデザインの検討を進め、具現化のための実施方策へとつなげました。

基本戦略としては、足利ならではの特性を活かし、他の地域との競争に耐えるものを優先し、お客様の目線で魅力のある観光資源を整備することを目指しました。

会議は、民間の感覚を十分に活かして、観光誘客の中長期的な部分まで含めたグランドデザインを考えていくこととし、いわゆる戦略としてどのように足利を盛り立てていくのかということについて、委員各位のご意見をいただきながら、基本的なコンセプトを明確にし、スピード感を持ちながら、しっかりした企画・立案までの検討を進めました。

具体的な検討内容としては、足利の持つ独自性、いわゆるオリジナリティの部分の見直しを行い、今ある観光資源のブラッシュアップや付加価値を持たせるなどの検討を行っております。

さらに、足利の持つ歴史、文化、自然などについて、個別のそれぞれの観光資源をどういう風にブラッシュアップし、一つの物語として明確なストーリーを構築できるかという観点で、個性や特長、魅力を掘り起こして、議論を進めました。

この戦略会議において作り上げたグランドデザインを基に、商工会議所、観光協会、行政といったそれぞれの組織団体、或いは市民全体が、役割分担をしながら協働して観光のまちづくりを達成していく必要があると考えております。

この会議は、これまで計６回の検討会議を行い、検討結果を提言としてまとめましたが、「足利観光誘客戦略会議」は、今後も随時、戦略の提案、施策実施の検証、施策の見直しなどを行ってまいりたいと考えております。

結びになりますが、副座長をはじめとして、各委員の皆さんには、ご多忙の中、短期間に集中した会議の開催にご協力いただきましたことに感謝いたします。

平成２４年１０月

足利観光誘客戦略会議座長　早川　慶治郎

Ⅰ．基　本　戦　略

足利ならではの地域資源の見直し

１．足利のオリジナリティの再発見

２．自然、歴史、文化、街並みなどの見直し

３．必然性を重視した個性の確立

競争力のあるもの、創れるものを優先

１．地域間競争に耐え得るもの

２．“あるもの活用”（現存するものを磨き上げ）、ＰＲによる競争力向上

３．メジャーなものと関連付けられるもの

お客様から見ての魅力づくりの構築

１．受け手から見た魅力、求めるものの検証

２．自己満足からの脱却

３．市民全体での「おもてなし」の充実

Ⅱ．グランドデザイン

○足利の歴史物語の構築　室町時代以前の歴史性・市内の史跡等の再認識

1．足利学校・鑁阿寺を中心とした観光エリア

1) 足利学校の魅力向上

・足利学校の充実－論語、史跡
・周辺環境の充実－観光的付加価値
　　歴史ストーリーの再構築
　　周辺の街並み整備

2) 足利学校・鑁阿寺の宝物展示

・国宝、重要文化財などの展示

3) 鑁阿寺の整備

・境内地の整備－史跡に相応しい庭園
　　伝統行事の再整備
　　境内参観の有料化
・周辺環境の整備－外部駐車場、観光的付加価値
　　周辺の街並み整備

2．樺崎寺を中心とした観光エリア

1) 浄土庭園の復原

・樺崎寺の充実－浄土庭園の整備
　　史跡の全体像
　　一般の認知度
　　浄土庭園の歴史ストーリー

2) 樺崎八幡宮の活用

・八幡宮の活用－足利義兼の入定地、社殿の公開
太々神楽、境内地の整備

3) 足利義兼・鑁阿寺との関連

・樺崎寺の位置づけ－鑁阿寺、足利氏との縁、史跡の全体像

○足利の近・現代産業遺産の再考

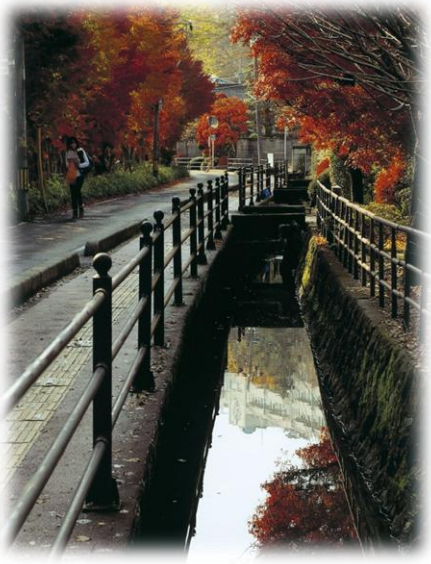
1．織姫神社を中心とした観光エリア

1) 縁結びの神様

・男坂・女坂－縁結びストーリーの構築
・織姫神社の伝統行事の確立－七夕まつり
短冊お焚き上げ

2) もみじ谷の充実

・紅葉の名所-規模拡大、充実、西渓園の一体活用



3) 西渓園の活用

・梅園－自然学習、作業実習
織姫公園からの連絡路

4) 逆川の整備

・逆川の活用－散策路の整備、沿道の緑化
水路の復旧

5) 産業遺跡観光

・産業遺跡の認知－観光ルート、織姫神社
足利織物伝承館

○「学び舎のまち足利」の具現化　体験型観光

1．あしかがフラワーパーク・栗田美術館を中心とした観光エリアの充実

1) 学びの要素の導入

・フラワーパークの集客力
・栗田美術館の知名度
・フラワーパーク、栗田美術館のカルチャー教室
・フラワーパークと連携した花のまちづくり

2) 栗田美術館からの全国窯元の情報発信

・栗田コレクションの選定、活用
・全国の陶器産地との連携

3) 栗田美術館の多機能化

・栗田美術館の多機能化－博物館、展示品の拡充
・栗田窯の創設

4) 関連施設との互恵関係の確立

・全国の陶磁器、陶芸関連の美術館等との連携
・各地の花の名所等と連携したＰＲ

5) 北部の観光ポイント

・名草巨石群、厳島神社の整備
・行道山浄因寺への交通アクセス

２．産業観光

1) 先進企業の視察受入れ

・工場見学等の観光プラン化

2) ５Ｓ推進企業の視察受入れ

・５Ｓ運動の取り組み企業と観光プラン
・まちじゅう５Ｓ活動

3) 産学官連携の学び

・自然エネルギーの研究
・留学生との交流

○足利の自然とその活用

１．里山ハイキングの促進

1) ハイキングコースの整備

・ハイキングコースの整備－新たなコース、つり橋などの設置
・魅力的なスポット－花木植栽、見晴らし台

2) コース案内の充実

・コース案内－交通アクセス、回遊ルート、ＰＲ

3) コース起・終点のおもてなし整備

・おもてなし－観光案内の充実、名産品等の販売、案内の充実

２．ＪＡ足利と連携した里山・農業活用による観光

1) ふるさと交流館の活用

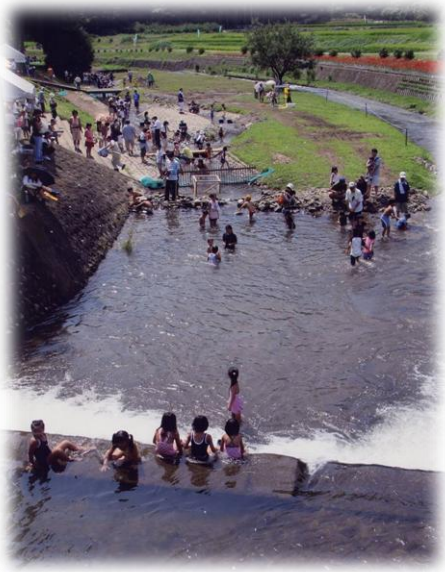
・ふるさと交流館の活用－宿泊、体験施設

2) 里山体験・農業体験の施設整備

・体験型観光－山間地域の里山、観光農園化、体験観光施設

3) 宿泊施設の整備

・宿泊施設－ロッジ付き農園、農園村

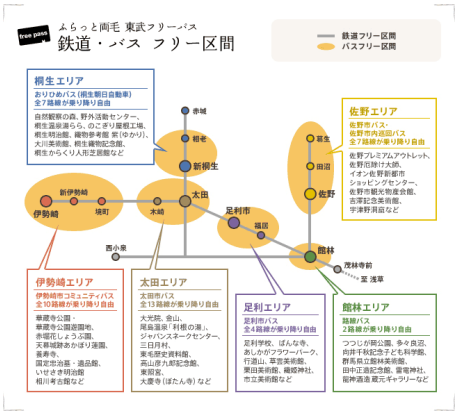


○広域観光エリアの構築

1. 鉄道事業者との連携による広域観光エリアの構築

1)東武鉄道・JRの活用

・広域観光エリア化－周遊きっぷの設定



2. 観光先進地等との互恵関係の整備（鎌倉市、水戸市など）

1)「北の鎌倉」－足利氏と鎌倉の歴史的関連、本家「鎌倉」の活用

2)花のまち－花の名所との相互宣伝

3)儒学、孔子などの歴史的つながり－水戸市、日田市などとの連携

3. 足利の地域特性を活かした近隣との連携（栃木市その他、両毛沿線）

1)東武鉄道沿線の広域観光エリア－館林市、太田市、伊勢崎市、みどり市

2)JR両毛線沿線の広域観光エリア－栃木市、佐野市、桐生市

3) 世界遺産登録－水戸市、日田市

○おもてなしの充実

1. 受け入れ施設の整備

1)観光駐車場－舗装の改修等整備、臨時駐車場の確保

2)観光トイレ－建物の改修、ブースの増設

3)太平記館－売り場面積の確保、利便性の向上

4)駅前観光案内所－休憩所機能、物産販売機能

2. 市民意識の向上

1)観光関連産業の従事者－接遇の研修の実施

2)市民の意識改革－おもてなし意識の向上、

観光情報の提供

3. インバウンド観光への取り組み

1)海外の観光客への対応－外国語版パンフレット、案内看板の多国語表記

2)海外からの観光客の利便性確保－各種クレジットカード等の導入

○来訪者の利便性の向上

1. 交通利便性の向上

1)一次交通の確保－首都圏からの直通路線運行、周遊きっぷの発行

2)二次交通の整備－生活路線バスの活用、小型バスやジャンボタクシーなどの活用

3)繁忙期の混雑緩和－臨時列車の増発、臨時停車場の検討

○足利の認知度の向上

1)歴史ストーリーの明確化－義兼と頼朝、足利氏と鎌倉幕府

2)歴史性、文化性－「北の鎌倉」、地理的位置－「北関東の足利」

3)コンベンションの誘致－市内観光との連携

4)フィルムコミッションの育成－メディアへのアプローチ

○足利の食文化の情報発信

1. 足利の食文化の再認識

1)足利の食道楽－洗練された食の再認識

2)足利B級グルメ－食の観光資源

2. 食を通じたおもてなし

1)均一価格の食事券－団体のツアーなどへの対応

2)食事処などの案内マップの作成－来訪者や宿泊者の手引き

Ⅲ．実施方策　　営業戦略

○足利の歴史物語の構築　室町時代以前の歴史性・市内の史跡等の再認識

1. 足利学校・鑁阿寺を中心とした観光エリア

1). 足利学校の魅力向上

【短期】

①足利学校で行われている論語の素読について、時間を定めて定期的に行うなど充実した体験型観光を推進する。

②論語の素読を発展させ、付加価値をつける方法として、論語検定の充実や論語かるたの活用、論語の書道展等関連する事業の実施を進める。

③中世の貴重な歴史、文化遺産として、世界遺産登録を実現するため、史跡全体の整備計画を策定し、史跡全体のジオラマ製作などを行い、全体像を周知することにより、復原の合意形成を進める。

④堀の復原の障害となる稲荷社は、暫定的に移設し、民間団体等への委託により、合格祈願所等を整備し、観光的付加価値を高めて、活用を図る。稲荷社への参道については、学校への参観経路の見直しを含めて、再整備を検討する。

⑤足利学校観光の魅力を高めるため、観光ガイドを充実し、休日等は、ガイドを学校内に常駐させる体制を整える。合わせて、鑁阿寺を含めた周辺地域の案内が可能となるよう体制を整える。

⑥足利学校に関連する人物や、小説「早雲の軍配者」などにみられる「軍師の育成機関としての足利学校」など史実に即した側面的なストーリーの構築とイメージキャラクターの創作など史実以外の面からの魅力づくり等広報宣伝を進める。

【中期】

①史跡の区域を明確にし、順次用地の確保を進め、堀など未整備箇所のうち、実施可能な個所から復原等の整備を進める。

【長期】

①足利学校周辺の街並み整備については、シンボルゲート等の設置など史跡周辺に相応しい街並みの修景を進め、景観条例の重点地区の指定などの法整備と地域の住民の合意形成を進める。

2). 足利学校・鑁阿寺の宝物展示

【中期】

①足利学校、鑁阿寺の所蔵する国宝、重要文化財などの文化財及び美術品などを近接する市立美術館を活用して、常設展示し、足利学校・鑁阿寺の歴史的価値、文化的価値を広く周知を図る。

②「孔子の生涯」を描いたガラススライド等の視覚的な資料を用いて、楽しく学べる展示方法を検討する。

③市立美術館で宝物展示を行うことにより、足利学校・鑁阿寺周辺との回遊性をもった観光エリアとする。

3). 鑁阿寺の整備

【短期】

①境内地の児童公園については、改修を機に日本庭園などを備えた史跡に相応しい公園として整備する。

②歴史的雰囲気を充実させるため、境内地への車の進入を制限し、近隣の外部駐車場の整備を進める。

③伝統行事の再整備を検討し、代表的行事である鎧年越しについては、運営方法の見直し等、より多くの参加と見物人を集められる親しまれる年中行事として確立させる。

④足利学校のボランティアガイドの活用など境内の観光ガイドを充実し、来訪者へのおもてなしの向上を図り、史跡の観光的付加価値を高める。

【中期】

①本堂裏の現在の駐車場区域については、児童公園と一体として、北門西側の蛭子堂、大西堂、御霊屋などの周辺を散策路として整備するほか、史跡としての雰囲気を醸成するため、能舞台の設置などを検討する。

【長期】

①境内施設の充実に合わせて、境内への入場の有料化を検討する。有料化の範囲としては、重要文化財の建物を中心とした範囲とし、都市公園としての範囲は、無料開放とする。

②鑁阿寺周辺の街並みについて、景観条例の重点地区の指定など基準・規制を明確にして、補助制度を設けるなど積極的に史跡周辺の街並み整備を進める。

2. 樺崎寺を中心とした観光エリア

1). 浄土庭園の復原

【短期】

①樺崎寺については、早期に可能な範囲の復原整備を行うものとし、発掘調査の結果に基づく全体像のジオラマ製作など広く一般の認知度を高める努力を進める。特に、浄土庭園については、早急に復原を図り、観光資源としての活用を図る。

②樺崎寺及び浄土庭園については、創建にまつわる足利義兼や鎌倉幕府、平泉の毛越寺庭園との関連について、史実に基づくストーリーを整理し、足利市全体の歴史としての一貫した物語を構築する。

2). 樺崎八幡宮の活用

【短期】

①本殿については、周囲を塀で囲むなどの周辺整備と公開時期を限定するなど神秘性、希少性を高め、付加価値をつける。

②樺崎八幡宮の施設整備と並行して、太々神楽の実施については、内容の充実、公開時期、広報宣伝を効果的に行い、観光資源としての価値を高める。

【中期】

①足利義兼が入定したとされている樺崎八幡宮本殿は、平成元年に文化財としての修復を終えており、参道や塀など周辺の施設整備を行うことにより、観光施設としての魅力を高める。

3). 足利義兼・鑁阿寺との関連

【短期】

①樺崎寺の復原に先立って、当面、発掘調査結果をもとに寺の全体像をジオラマ化するなどにより、往時の姿を偲ばせ、観光施設としての活用を図る。

【中期】

①樺崎寺については、鑁阿寺と同じ足利義兼の創建であり、奥州征伐の戦勝祈願のために建立したという歴史性に加えて、鑁阿寺から樺崎寺に至る足利氏ゆかりの寺社と連続した観光コースとして整備を進める。

法玄寺

法楽寺

吉祥寺

光得寺

○足利の近・現代産業遺産の再考

1. 織姫神社を中心とした観光エリア

1). 縁結びの神様

【短期】

①男坂・女坂を整備・活用し、縁結びストーリーを構築する。坂の合流地点にイベント施設を設け、恋人証明の発行など縁結びを完結させる。

②織姫神社における伝統行事としての「七夕まつり」を再構築し、縁結びに限らず様々な願い事を行うイベントとして、実施する。ANAの願い事短冊のお焚き上げなどを年中行事として確立し、内容の充実を図る。

2). もみじ谷の充実

【中期】

①紅葉の名所として規模を拡大するため、織姫ハイキングコースへつながる園路等にも植樹を行い、もみじの種類等を増やすなど内容の充実を図る。

②織姫公園・もみじ谷から西宮の梅林（西渓園）に至る経路を整備し、一体の観光スポットとしての活用を図る。

3). 西渓園の活用

【短期】

①梅の木の育成等を小中学生の作業体験として実施し、自然学習、作業実習の場として活用するとともに、観光施設としての梅園を整備する。

【中期】

①梅園への幅広いアプローチを確保するため、織姫公園からの連絡路の整備を行う。

4). 逆川の整備

【長期】

①京都の「哲学の道」にならって、逆川の緑町から本城に至る範囲の歩道を水路沿いの散策路として整備する。

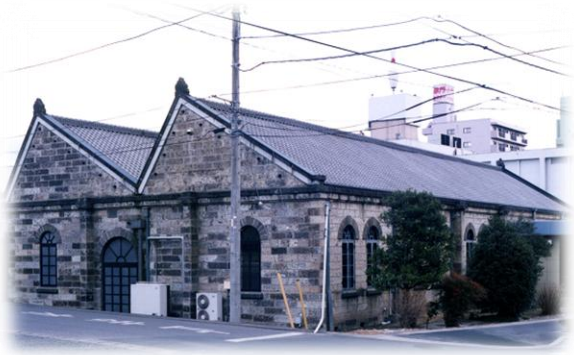
②散策路の整備にあたって、旧日赤周辺の暗渠化された部分について、水路の復旧などを進める。

③散策路の整備に合わせて、沿道の緑化補助など周辺景観の整備補助制度を整備する。

5). 産業遺跡観光

【短期】

①市内に残る繊維産業の工場や繊維問屋など産業遺跡を巡る観光ルートや織姫神社、足利織物伝承館といった関連施設を含めた観光ルートの設定などテーマ性のある観光ルートの設定を進める。



○「学び舎のまち足利」の具現化

1. あしかがフラワーパーク・栗田美術館を中心とした観光エリアの充実

1). 学びの要素の導入

【短期】

①フラワーパークの集客を市内への誘客につなげるため、市内の寺社等において特徴のある花の庭を整備し、「あしかがの花を訪ねるコース」など回遊性をもった観光ルートの開発を行う。

②栗田美術館の知名度を活用した陶芸体験やフラワーパークの専門家による草花の寄せ植えやフラワーアレンジメントなどのカルチャー教室的な体験観光を実施する。

2). 栗田美術館からの全国窯元の情報発信

【中期】

①全国の陶器産地と連携して、有名産地の陶器アウトレットショップなどの制度化を図る。

【長期】

①全国の若手作家の中から、有望な作家を発掘し、栗田コレクション選定する。コレクションの頒布会制度や作品展示・販売などを実施する。

②若手の有望作家を招いて、一定期間の作陶を依頼するなど栗田窯を創設し、陶器産地化する。

3). 栗田美術館の多機能化

【短期】

①栗田美術館の広い敷地を活用して、陶磁器以外の多様な展示が行える美術館、博物館としての多機能化を進める。

4). 関連施設との互恵関係の確立

【短期】

①フラワーパークのメインである藤の花や冬のイルミネーションの時期の前後にピークのある各地の花の名所などと協力して、お互いの来訪者に次期の花の情報を伝達し、花に興味のある人々に効果的にPRするなどの連携を図る。

【中期】

①全国の陶磁器、陶芸関連の美術館と連携し、相互の広報・宣伝について、協力体制を整備し、収蔵品の貸し出しなど展示の多様化を図り、誘客につなげる。

5). 北部の観光ポイント

【短期】

①県の名勝第1号に指定されている行道山浄因寺は、和銅年間に行基上人の開基とされ、関東の高野山ともいわれる名刹であり、交通アクセスの整備や境内地の整備を行い、観光スポットとしての価値を高める。

【中期】

①国の天然記念物に指定されている名草巨石群は、巨岩・奇石が重なり合っており、神秘的な自然の景観をもち、弘法大師空海により勧請された弁財天（のち厳島神社）が祭られていることから、パワースポットとして、参道の整備などを行うことにより、観光施設としての価値を高める。

5. 産業観光

1). 先進企業の視察の受入れ

【中期】

①市内における先端技術産業の工場見学などを核に、周辺の観光施設を連携させた旅行プランを設定する。

2). 5S推進企業の視察の受入れ

【中期】

①近年注目を浴びている5S運動の取り組み企業などを取り上げて、企業視察と連動した観光案内を整備する。

②企業活動以外の面においても、足利流5S活動を推進する。（まちじゅう5S活動）

3. 産学官連携の学び

【短期】

①産学官連携の一環として、風力発電など自然エネルギーの活用を研究する足利工業大学の研究などを情報発信し、視察研修などの誘客に活用する。

②足利工業大学の留学生などとの交流を通じて、外国との相互理解を深め、外国から見た「ASHIKAGA」を再認識し、インバウンド観光につなげる。

○足利の自然とその活用

1. 里山ハイキングの促進

1). ハイキングコースの整備

【短期】

①新たなコースの整備として、既存の天狗山ハイキングコースと足利公園を連絡させるため、通 7 丁目の切通し部分につり橋など連絡橋の架橋を行い、ハイキングコースの回遊性を高める。

イメージ（写真：太田市　御城橋）

②既存のハイキングコースについてもルートの整備や魅力的なスポット（花木植栽、見晴らし場所、連絡橋など）を設けるなどの整備を進める。

【中期】

①既存のハイキングコースについては、それぞれの安全設備・案内板等の整備を進め、より判りやすいコース案内とする。

2). コース案内の充実

【短期】

①ハイキングコースを利用するための交通アクセスを東武鉄道、JR各線の主要駅から生活路線バスの時間に合わせた時間設定でのコース案内やコースの回遊ルートの設定、所要時間別ルートの設定など利用しやすいコース設定をPRする。

②オンデマンドバスの活用など、駅からハイキングコースまでの二次交通手段の確保を進める。

③団体のお客様を中心にハイキングコースのボランティアガイド制度化を図り、初心者のツアーなどの誘客を進める。

3). コース起・終点のおもてなし整備

【中期】

①ハイキングコースの起点・終点における市内観光案内の充実、名産品や農産物の直売所などおもてなし施設の整備を行う。

②路線バスやデマンドバスなどを充実し、駅前をハイキングの起点・終点として、帰りに名産品や農産物などの提供が行える施設整備を行う。

2. JA足利と連携した里山・農業活用による観光

1). ふるさと交流館の活用

【短期】

①ふるさと交流館を活用して、里山ならではの体験型観光、具体的には、竹工芸、わらじ作り、しめ飾り製作などを実施する。

【長期】

①グリーンツーリズムの拠点として、名草のふるさと交流館を活用し、周辺地域への体験農園の整備など交流事業の拡大を進める。週末の宿泊や長期滞在型の体験施設を整備する。

②ふるさと交流館の活動については、第4回活力協働まちづくり推進団体表彰・準グランプリ受賞を受けた交流館活動について広く周知を図り、活動の枠を広げるとともに、参加者、特に観光客の参加を促す事業を進める。

2). 里山体験・農業体験の施設整備

【長期】

①名草、月谷、田島、松田、小俣など山間地域を活用して、里山ならではの農業、林業、工芸品制作など体験型観光を開発する。具体的には、生産農家との連携により、竹の子狩り、シイタケ狩りや竹工芸、わらじ作り、しめ飾り製作など観光農園化を推進する。

②栽培から収穫までの農業体験を可能とすることにより、体験型観光を複数回のパック化したものとする。宿泊施設の整備により、宿泊体験や地元民との交流を可能として移住の促進等への展開を検討する。農業指導者の確保、農地の整備を進める。

3. 宿泊施設の整備

イメージ（笠間クラインガルテン）

【長期】

①体験型観光をより幅広く推進するため、宿泊施設の整備を進める。宿泊ロッジ付き農園の貸し出しや定期借地農園の利用者に向けた宿泊施設を整備する。

②地域住民との交流を促進するため、空家となっている民家などを活用し、疑似農家体験が可能となるような農園村の整備を進める。

○広域観光エリアの構築

1. 鉄道事業者との連携による広域観光エリアの構築

【短期】

①東武鉄道・JRを活用し、広域観光エリア化が可能となるような周遊きっぷの作成など広域観光エリアの設定を進める。

2. 観光先進地等との互恵関係の整備（鎌倉市、水戸市など）

【短期】

①「北の鎌倉」として、足利氏と鎌倉の歴史的関連を十分に掘り起こし、本家「鎌倉」の知名度、イメージを活用して誘客につなげる。

②花の町としてのイメージを活かして、季節的に競合しない花の名所との相互宣伝など互恵関係の構築を進める。

③足利学校の中心である儒学、孔子などの歴史的つながりにより、水戸市、日田市などと連携した相互の宣伝体制を構築する。

3. 足利の地域特性を活かした近隣との連携（栃木市その他、両毛沿線）

【短期】

①足利市に隣接する東武鉄道沿線の館林市、太田市、伊勢崎市などと連携し、東武鉄道を利用した広域観光エリアの設定による誘客を進める。

②JR両毛線沿線の栃木市、佐野市、桐生市などと連携し、各市の個性を活用した広域観光エリアの設定を進める。

③水戸市、日田市など世界遺産登録を目指す各市と連携した周知活動などの互恵関係を深める。

○もてなしの充実

1.　受け入れ施設の整備

【短期】

①足利学校に隣接する観光駐車場については、利用者の利便を図るため、舗装の改修、などの整備を行うとともに、近隣に臨時駐車場として利用可能な敷地の確保を図る。

②観光駐車場内の観光トイレについては、経年劣化が進んでおり、快適な利用が可能となるような建物の改修やブースの増設を行う。

③太平記館については、観光客の利便性や今後の増加に対応するため、売り場面積の確保や利用者の利便性の向上を図る。

④東武伊勢崎線・足利市駅の駅前観光案内所については、狭隘であり、休憩所機能や物産販売機能などの整備・充実を図る。

2. 市民意識の向上

【短期】

①タクシー運転手や宿泊施設従業員など観光関連産業の従事者について、観光客へのおもてなしなど接遇の研修等を定期的に実施する。

②観光のまちづくりのため、市民の意識改革、おもてなし意識の向上のために、足利市の観光に関する情報提供とおもてなしに関する講演会などを開催する。

③観光のまちづくりに対する市民意識の向上のため、市内の観光スポットを回る「市民観光」を推進する。

3. インバウンド観光への取り組み

【短期】

①台湾・韓国・中国を中心とする海外の観光客への対応として、各種パンフレットの外国語版の作成や案内看板の多国語表記などを実施する。

②海外からの観光客の利便性を確保するため、各種クレジットカードの対応、特に中国人観光客のために銀連カードの導入を進める。

○来訪者の利便性の向上

1. 交通利便性の向上

【短期】

①外客の誘客に最も大切となる一次交通としての鉄道事業者へ働きかけて、首都圏からの直通路線の運行や周辺観光地と連携した周遊きっぷの発行などを進める。

②JRや東武鉄道を利用して訪れた観光客の二次交通として、生活路線バスの活用も含め、市内の観光スポットを巡る路線やハイキングコースへの路線など観光コースに合わせた小型バスやジャンボタクシーなどを整備する。

【長期】

①春、秋の行楽シーズンや夏の花火など繁忙期における鉄道利用の観光客の利便性を向上させるため、臨時列車の増発や臨時停車場の検討を進める。

○足利の認知度の向上

【短期】

①鑁阿寺の開基である足利義兼は、八幡太郎義家のひ孫にあたり、鎌倉幕府を開いた源　頼朝の妻政子と義兼の妻時子が姉妹であり、鎌倉幕府と強いきずなをもっていた事実がある。そこで、足利を「北の鎌倉」と位置づけ、鎌倉幕府と足利氏の関係など史実に沿った歴史ストーリーを明確にして、認知度を高める。

②足利をPRするためのキャッチコピーとして、足利市の歴史性、文化性を表す「北の鎌倉」という表現や地理的位置を表現した「北関東の足利」といった表現などをポスターやパンフレットの作成にあたって目的別に活用する。

③観光振興を図るため、全国各地から大勢の方が集まる各種コンベンションの開催などを誘致し、会議や見本市などに合わせて、市内観光をPRする。

【中期】

①市内の観光施設やビューポイントを映像としてPRできるように、テレビや映像制作会社などとの窓口となるフィルムコミッションの育成を図り、足利市のメディアへの露出を推進する。

○足利の食文化の情報発信

1. 足利の食文化の再認識

【短期】

①足利の食文化については、繊維産業が盛んであったころに京都、大阪などの商人の接待などを通じて、「あしかがの食い道楽」と称されるようになっていた。これらの洗練された食を再認識し、来訪者に提供できるような仕組みを作り上げる。

②そば祭りで取り上げられている足利の蕎麦や「ポテト入り焼きそば」、「いもフライ」や「足利シュウマイ」などB級グルメ的なものについて、「足利秋まつり」における「グルメグランプリ」などを通じて認知度を高め、新たなB級グルメの開発と合わせて、食の観光資源として活用する。

2. 食を通じたおもてなし

【短期】

①足利学校周辺を訪れた観光客への食のおもてなしとして、周辺の食事処の連携による均一価格の食事券などを販売し、団体のツアーなどでも周辺で手軽に好みの食事を楽しめるようにする。

②市内の食事処や居酒屋などの案内マップを作成し、来訪者や宿泊者が手軽に安心して食事やお酒を楽しんで頂けるようにする。

○以下、順次追加

※　実施方策の時間的目安

【長期】－　概ね 10 年以内に終了を目指すもの

【中期】－　概ね 3 年から 5 年以内の終了を目指すもの

【短期】－　1 年以内に着手を目指すもの

平成 25 年 4 月を起点に時間的目安を算定する。

Ⅳ．推進体系

基　本　戦　略

↓

グランドデザイン－機能別、エリア別

↓

実　施　方　策

■資料編

1. 足利観光誘客戦略会議設置要綱

（設置）

第1条　足利学校を核として「学び舎のまち足利」を全国に向けて情報発信し、足利市への観光誘客の推進及び足利学校参観者の倍増を図るための基本的な計画を専門的な視点から考察し、足利学校参観者倍増計画庁内推進会議と連携し事業の推進を図るため、足利観光誘客戦略会議（以下「戦略会議」という。）を設置する。

（所管事項）

第2条　戦略会議は、次に掲げる事項を所管する。

⑴ 観光誘客の推進と足利学校参観者の倍増の実現に関する基本的な計画（以下「グランドデザイン」という。）の策定に関すること。

⑵ グランドデザインを具現化するための施策（以下「施策」という。）の企画及び立案に関すること。

⑶ 施策の実施状況の管理に関すること。

⑷ 施策の評価及び改善に関すること。

⑸ 関係機関との総合調整に関すること。

⑹ 前各号に掲げるもののほか、グランドデザインの推進に関し必要があると認める事項に関すること

（組織）

第3条　戦略会議は、座長、副座長及び委員をもって組織する。

2　座長及び副座長は委員の互選により選出する。

3　委員は別表第1のとおりとする。

（座長及び副座長）

第4条　座長は、会務を総理し、戦略会議を代表する。

2　副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき、又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条　戦略会議の会議は、座長が招集し、座長が議長となる。

2　戦略会議は、必要があると認めるときは、会議に構成員以外の者の出席を求めて、その意見又は説明を聴くことができる。

（庶務）

第6条　戦略会議の庶務は、市観光交流課・史跡足利学校事務所・商工会議所において処理する。

（その他）

第7条　この要綱に定めるもののほか、戦略会議の運営に関し必要な事項は、座長が会議に諮って定める。

附　則

この要綱は、平成24年4月2日から施行する。

別表第1（第3条関係）

足利商工会議所	早川　慶治郎	（会　頭）◎座　長
足利市観光協会	天野　泰浩	（会　員）
立春会	田野　雅己	（副会長）
いしだたみの会	茂木　宏	（bros 代表取締役）
鑁阿寺	山越　忍隆	（住　職）○副　座　長
観光専門ライター	金澤　佑樹	（元旅行雑誌　栃木担当・市観光協会会員）
旅行業者	新井　宏	（ＪＴＢ関東チームマネージャー）
〃	売野　安和	（東武トラベルシステム代表取締役）
交通機関	栗田　卓	（JR東日本高崎支社観光開発プロジェクト　副課長）
〃	小川　聡史	（東武鉄道（株）経営企画部　課長）

２．足利学校参観者倍増計画実施図

・観光誘客・足利学校参観者倍増の基本計画の策定（グランドデザイン）

・基本計画に基づく施策の企画及び立案

・関係機関との総合調整（合同会議の開催）

・その他必要事項

足利観光誘客戦略会議 ⇔ 足利学校参観者倍増計画庁内推進会議

足利商工会議所
・グランドデザインに基づく施策の実施

⇔

足利市

足利学校	観光交流課

・グランドデザインに基づく施策の実施

⇔

足利市観光協会
・グランドデザインに基づく施策の実施

３．足利学校参観者倍増計画について

1. 計画策定の趣旨及び位置付け

⑴ 策定の趣旨

日本最古の学校・足利学校は、我が国を代表する教育遺産として、貴重な史跡であるばかりでなく、本市観光のシンボルとなっております。

足利学校を盛りたて多くの人々が集う場とすることは、本市の個性を際立たせ、教育文化、観光都市足利を実現するために重要なことと考えます。

そこで、足利学校を核として「学び舎のまち足利」を全国に向けて情報発信し、参観者を倍増させる計画を策定し、推進していくこととします。

⑵ 本計画の性格

現行の第 6 次足利市総合計画のリーディングプログラムである「シティセールスにぎわいプロジェクト」の取り組みである「足利学校を核としたさらなる魅力向上」の方策の 1 つとして、足利学校への参観者数の増加を指標にした「足利学校参観者倍増計画」を策定します。

この「足利学校倍増計画」は、現在の年間参観者数約 16 万人を毎年 10%ずつ増やすことを目標に掲げ、8 年後の平成 31 年に倍増の 32 万人を目指し、そのための増加策を重点的に展開した年度ごとの参観者増加の行動計画として位置づけ、実効性の高い行動計画とします。

2. 計画期間

⑴ 計画期間

本計画の最終目標は、8 年後の平成 31 年に現在の参観者数の倍増としますが、毎年度の数値目標である前年度比 10%が掲げられているため、毎年度計画を作成する年間計画とします。